

一般社団法人
全国個室ユニットケア型施設推進協議会
第26回ワンポイントセミナー

認知症の方のアプローチ、
思いを形に

一般社団法人わたいば代表理事
横浜市認知症介護指導者 松田 昇

よろしくお願いいたします。 簡単な自己紹介です

- 松田 昇 1959年10月28日生まれ。
- 23歳の時に地元のデイサービスのドライバーとして特別養護老人ホームに入職。懐の深いお年寄りとの交流がなじみとなって、福祉の仕事を生涯の仕事とするようになりました。
- 最初は無資格でしたが、社会福祉主事・介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員・認知症介護指導者・精神保健福祉士を取得し、2006年より認知症介護実践者研修にて講師活動を行っています。15年間で約3750名の修了生を送り出してきました。
- 好きなこと、オートバイや車の修理、ツーリング。

今日の研修での皆さんの「学びの希望」

- 認知症ケアの向上に取り組んでいきたいため研修に参加し理解を深めたい
- 認知症の方に信頼して頂く為のアプローチの方法を学びたい
- 周辺症状への対応
- 認知症の方の対応について
- 認知症高齢者の周辺症状への正しい対応の仕方
- 認知症の方のケアについて学びたい
- 物とられ症候群、強い帰宅願望のある方への対応方法
- 認知症の利用者への正しい対応を学び仕事に活かしていきたいと思えます
- 認知症ケアを学ぶことで、より個別ケアの知識を深めたい。
- 認知症の方の不穏軽減対応方法
- 「思いを形に」どのような取り組みとアプローチで実現させていけるのかを学びたいです
- 物とられ症候群の方への対応、帰宅願望者への対応

皆さんの「学びの希望」を拝見して ちょっと気になったこと。

- 認知症ケアの向上に取り組んでいきたいため研修に参加し理解を深めたい
- 認知症の方に信頼して頂く為のアプローチの方法を学びたい
- 周辺症状への**対応**
- 認知症の方の**対応**について
- 認知症高齢者の周辺症状への正しい**対応**の仕方
- 認知症の方のケアについて学びたい
- 物とられ症候群、強い帰宅願望のある方への**対応**方法
- 認知症の利用者への正しい**対応**を学び仕事に活かしていきたいと思えます
- 認知症ケアを学ぶことで、より個別ケアの知識を深めたい。
- 認知症の方の不穏軽減**対応**方法
- 「思いを形に」どのような取り組みとアプローチで実現させていけるのかを学びたいです
- 物とられ症候群の方への**対応**、帰宅願望者への**対応**

多くの皆さんは認知症への**対応**に困っている？

- ◆ そもそも、対応って何でしょう？
- ◆ 辞書を引いてみると
 - ① 「同じ種類の2つのものが向かい合って対になること」。対角線で結ばれる四辺形の角などが該当します。
 - ② 「あるもの事と他のもの事が、**対立したり相当したりする関係**にあること」と書かれています。
- ◆ 皆さんが述べられている「対応」について更に読み込んでみると、「正しい**対応**」って言葉が二つあります。
- ◆ 認知症介護実践者研修でも受講動機を伺っていますが、皆さんと同じように「認知症への正しい**対応**」について多く書かれています。

多くの皆さんは認知症への対応に困っている？

- ◆ つまり、それだけ認知症への対応に皆さんは困っているって事ですね。
 - ・ 落ち着かず、うろうろと歩き回っている方。
 - ・ 何度も何度も同じことを聞いてくる方。
 - ・ お風呂になかなか入って下さらない方。
 - ・ すぐに怒り出す方。他者の迷惑なっちゃう方
- ◆ 確かに困りますよね！
この場面ってどんな場面でしょう？
皆さんが担当者として認知症の方に声をかけてケアを行いたいと説明・お願いしても判っていただけない。
- ◆ しかも、たくさんのやらかなきゃならない仕事を背負っている。

多くの皆さんは認知症への**対応**に困っている？

- ◆ その方のために必要なケアを行おうとしているのに、相手のお年寄りは言うことを聞いてくれない。
- ◆ しかも場面としては概ね、皆さんスタッフとお年寄りのだいたい二人の関係ですよ。
- ◆ この時の皆さんの心理状態はだいたいこんな感じじゃないでしょうか？
「まいったな。またか！まだ仕事が残っているのに。この様子だと、また時間がかかっちゃうな。早番の休み時間に食い込んじゃう。また早番に迷惑かけちゃうよ！」
- ◆ これがうまく対応できていない場面ってことですね。「対応」 = 「**対立したり相当したりする関係**」になっちゃってる。

対立関係と**孤独**

早くしないと仕事が終わらないよ！

何かだか知らないがしつこいな！まったく！



焦り・**孤独**



状況が理解できない
不安・**孤独**

正しい**対応**では**対立**してしまう

9

- ◆ 正しい**対応**では対立しちゃう。どうしてこうなっちゃうんでしょうか？
- ◆ それは、双方がちゃんと向き合えていないから。皆さんはケアをすることに一生懸命になっているのですが、相手のお年寄りにはそれが理解できない。

認知症の症状の中心である「**記憶障害**」

記憶障害から導き出される「**理解や行動の障害**」

記憶障害に伴って時間・場所・人についての目当てが出来なくなる「**見当識障害**」

これらが相まって今までしていた事が出来なくなる「**実行機能障害**」や「**失行や失認**」

- ◆ これらをご存じの、認知症方の中心に共通してある「**中核症状**」というものです。

中核症状による心理的特徴

10

不快感

物忘れや、周囲の人に理解してもらえない

焦燥感

思い通りに事が進まない事へのイライラ

被害感

物忘れに伴う
物盗られ妄想

不安感

自分自身を取り巻く状況、
自分自身に関する事柄が
わからない不安



混乱

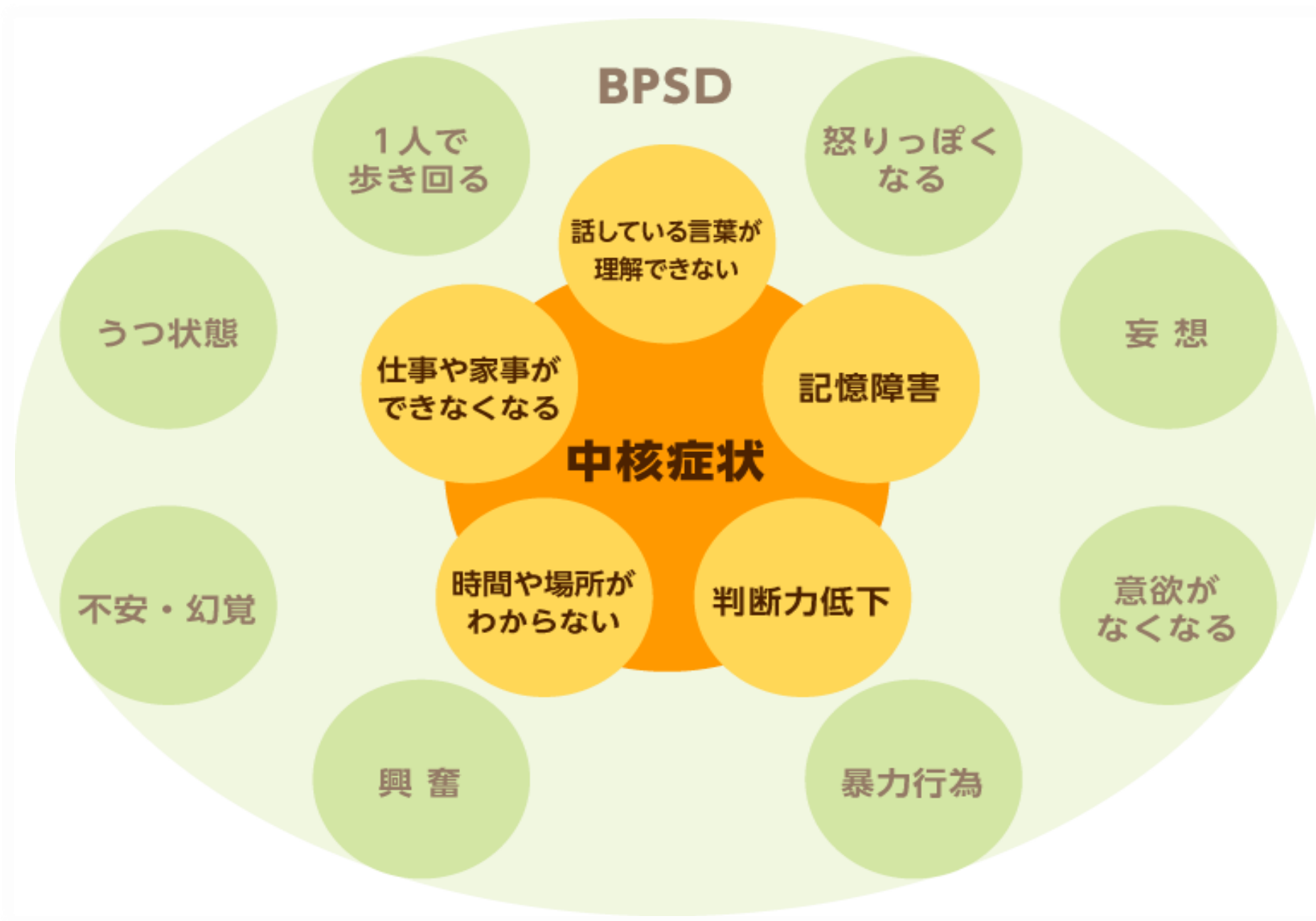
中核症状により日常生活
全般に混乱を与える

不安定な感情

中核症状に伴いストレ
スを感じた生活の連続

最初に中核症状に気づくのは、本人であるお年寄り自身なのです。
お年寄りはこの様な不安を抱えつつ孤独になっているのです

認知症の中核症状(脳の器質的変化) と周辺症状(BPSD)の関係



中核症状による 心理状態

12

何だか変だなあ??

どうして怒って
いるんだろう?

さっきって
何も聞いていない!



その言い方はなん
だ・・・

俺をバカにしているのか・・・?

BPSD

徘徊

不安・抑うつ

帰宅欲求

困った人・大変な人

興奮

暴力

攻撃的言動



私たちが**対応**していた認知症の人はこうした方たちなのです

- ◆ 認知症の人の言葉や行動の背景には中核症状があります。
- ◆ 想像してみてください、「確かに忘れっぽくなった」「頭がボーっとして集中できない」「何をすればよいのか判らない」「何かおかしい?」「漠然とした不安」その状態の中で職員に様々な声をかけられているのです。
- ◆ 不安やイライラ、消極的になる、感情的になって爆発してしまう・・・無理もない状況ですよ。
- ◆ 認知症の方に私たちがまず行うべきことは、ご説明したような状況の中に認知症の方は生きている事を理解することなのです。
- ◆ こうした背景を理解すれば「**対応**」は変わります。対立ではなく、認知症の中核症状を理解したうえで、その方がおかれている**状況に合わせる事**でよいのです。

対応ではなく認知症の人の状況 に合わせる事とは

- ◆ お風呂に誘ったが拒否されてしまう
⇒お風呂に入れる役割の職員が誘ったが、その時には認知症の方はお風呂に入る気にならなかった。ただそれだけなのです。いくら手を変え品を変えても、ご本人はお風呂に入る気にはなれないので、認知症の方からみれば「うるさい！しつこい！」でしかありません。
- ◆ この場面では、その認知症の方がお風呂に入りたくなる状況を作る事が重要です。それには、その方の以前の暮らし方を知らなければなりません。これが**アセスメント**です。
- ◆ アセスメントの中でその方はどんな様子でお風呂に入られていたのか？これをつかんでいれば誘い方は変えられるはずです。⇒温泉が好きで良く出かけられていた。だったら、白濁する入浴剤を入れて、お風呂に入りましょうとは言わずに「今日は草津の温泉ですよ！」とお誘いすれば伝わり方が変わってくるはずです。

もう一つ、大切なこと

15

「チームケア」

- ◆ 介護者も人間です。たくさんの仕事を抱えていれば気持ちは焦ります。自分の仕事の進め方によって他の仲間に負担をかけてしまうことは大変なストレスです。
- ◆ こんな時こそ「チームケア」です。「今、松田さんをお風呂に誘ったのだけれど『今は入りたくない！』って拒否られた」とそのままの状況を伝え合いましょう。
- ◆ 「松田さんはしつこくすると怒り出すから、時間を空けてもう一度誘ってみて、ダメだったら午後の入浴にしましょう」とか「松田さんは出かける前には必ずお風呂に入ってきてきれいにして出かけていたと、ご家族から聞いたことがあるから「お昼の食堂に出かける前にきれいにしておきましょう」とって声掛けに変えてみたら？」などのアイディアが仲間から得られるかもしれません。
- ◆ こうしたケアの工夫については、記録には書ききれないことが実は多いのです。松田さんの入浴の誘い方に困っているのだったら、ほかの職員達に「どうしたらうまくいく？」とSOSを出して聞いてみる事。これもチームケアの一つです。
- ◆ さらに簡単にはいかない困難な事例だとしても「これはやらない方が良い」という過去の失敗事例は聞けるかもしれません。「やってはいけない事」を避けるだけで、お年寄りや関わる私達のストレスは軽減できます。

対応することをやめて「その人の状況に合わせる事」と「チームケア」を行きましょう！

- ◆ 認知症の方は中核症状がある事で、日常生活の中で大変な困難を感じながら生活している事を理解しましょう。
- ◆ 認知症の方のさまざまな言葉や行動を「困った事」として捉えるのではなく、私たちに向けられたメッセージと捉え、その言葉や行動の意味を考えていくことが「認知症ケア」なのです。
- ◆ 対応することは対立することにつながってしまいます。「状況に合わせる事」として変えましょう。
- ◆ 一人で対応するのではなくチームでともに知恵や経験を出しながら状況に合わせたケアを行きましょう。
- ◆ 更に、重要なことは「BPSDは認知症の方のストレスへの対処行動」である事を理解して、単純にBPSDをなくすことが認知症ケアではない事を理解してください。

最後に藤川幸之助さんの詩集

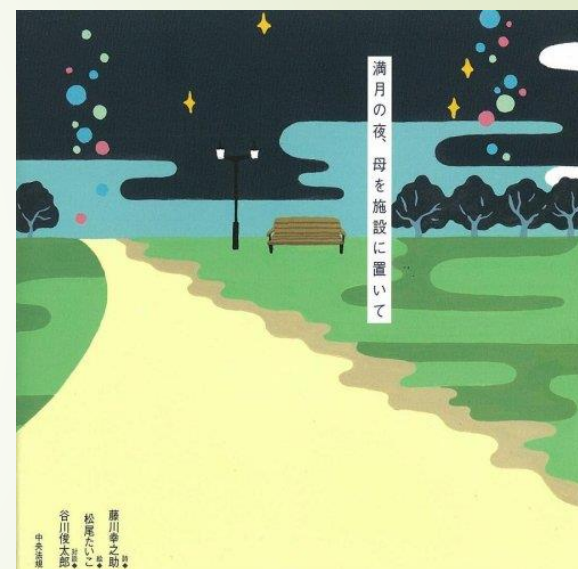
「満月の夜、母を施設に置いて」からの一節をご紹介します

手帳

母が決して誰にも見せなかった手帳が、今私の手のひらの上にあります。黒い背張りの古い装幀の手帳です。

それは、いつも母のバッグの底深く沈めてありました。寝るときは、枕元に置き、見張るように母は寝ました。その手帳には、父と兄と私の名前と誕生日、年齢、電話番号が、それぞれの見開きのページに大きく書いてあります。それらの後には、自分の兄弟姉妹や父の兄弟姉妹の名前が並べてびっしり書いてあります。

そして、手帳の最後には、ふりがなを付けた自分自身の名前が、どの名前よりも大きく書いております。その名前には、上から何度も鉛筆でなぞった跡があります。母は何度も何度も、自分の名前を覚えなおしながら、これが本当に自分の名前なんだろうかと、薄れゆく自分の記憶にほとほといやになっていたに違いありません。母の名前の下には、鉛筆を拳で握って押し付けなければつかないような小さな黒点が、二、三枚下の紙も凹ませるくらいくっきりと母の無念さを写し出して残っています。



最後に藤川幸之助さんの詩集

「満月の夜、母を施設に置いて」からの一節をご紹介します

その手帳の存在に気づいたのは、父・母・兄・私の四人で話をしていた時のことでした。母は自分の話ばかりをしました。母は同じ話ばかりを繰り返しました。母が病気だなんて知るはずもなく。とにかく、三人の話を聞こうともせず、また自分の話を始めようとする母に、私は苛立って「自分の話ばかりするのはやめてくれ」と冷たく言い放ちました。考えてみると、三人の話についていくことができず、自分から別の話を切り出すしかなかったのでしょうか。そんな母を理解しようともせず、邪魔者にして、三人の話ははずみました。母は黙って、理解できない言葉に頷くふりをして、私たちの話に耳を傾けているしかなかったのだと思います。

話に夢中になっている間に、母がその場からいなくなっていました。あまりにも長いこと帰ってこないで、探してみると、母は三面鏡の前で何かを読んでいた。声を出して、何度も和たちの名前を唱え、ページをめくり、父の名前、兄の名前を何度も何度も繰り返し唱え、そして、最後に自分の呼び名である「おかあさん」を何度も何度も何度も唱えて、ふと立ち上がり、振り返りました。母の手には、手帳が広げられていました。母は、私に気が付くと、慌ててカバンの中にその手帳を押し込みました。その悲しい手帳が、今私の手のひらの上に乗っています。



参考文献など

- ▶ 「満月の夜、母を施設に置いて」詩：藤川幸之助
絵：松尾たいこ 対談：谷川俊太郎
中央法規出版 ISBN978-4-8058-3019-2
- ▶ 認知症介護実践者研修資料「認知症の人の権利擁護」
「認知症の人の生活環境づくり」松田担当
- ▶ ぜひ読んでいただきたい、藤川幸之助さんの紹介
「認知症の母が私を通して詩を書いている——詩人・
藤川幸之助が伝えたいこと」
致知出版社Webサイト
https://www.chichi.co.jp/web/20200305_hujikawa_konosuke/